

今回は卒業生の指導でお忙しい中、臨時休業中の君たちへ向けて、
高校3年生の先生から熱いメッセージをいただきましたので、紹介したいと思います。

新2・3年生へのメッセージ

私の担当したクラスの生徒の国公立大前期試験の合格発表が終わりました。まだ、これから国公立大・私立大の後期試験の受験をする生徒もいますので、最後まで応援していきたいと思っています。

さて、約1年前の4月当初に掲げていた「第一志望校」を受験した生徒がどれくらいいるか想像できますか？私の担当したクラスでは、片手で数えられるほどしかいません。

なぜ、多くの生徒は、4月当初に掲げていた「第一志望校」を受験すらできなかったのか？
理由は2つあります。

1つ目は、4月当初の志望校から志望校が変わったということです。



4月に初めて面談をしたとき、多くの生徒が「第一志望校」を持っていましたが、明確な志望理由を持っている生徒は少ない状況でした。自分が大学で何をしたいのか、志望している大学の特色は何か、他の大学と比較検討したか、などを聞きましたが、なかなか答えられない状況が9月頃まで続きました。自分の強み・弱み、自分の興味のあるもの、将来性、第三者からのアドバイス、などを考えていくうちに、「本当に目指したいところ」が変わってきたのではないのでしょうか。結果的に多くの生徒が、4月当初の志望校から志望校が変わったのだと考えています。

AO入試（来年度から「総合型選抜入試」）は8月から、推薦入試（来年度から「学校推薦型選抜入試」）は11月から出願が始まりますので、志望校を定めるのは早い方がいいと思います。しかし、それらの試験には、自己推薦書や志望理由書が必要です。志望校を絞り込む前に、丁寧に客観的な自己分析と、大学・学部・学科を調査、比較していく必要があると思います。時間をかけて、じっくりやった方が良いでしょう。

2つ目の理由は、間に合わなかったことです。

国公立大一般入試（AO・推薦などの特別入試の一部や私大も）では、センター試験（来年度から「大学入学共通テスト」）での目標点があります。合格可能性60%（B判定）となるような点数です。その目標点に到達することが、合格への第一歩となります。残念ながら第一志望校の目標点に到達できなかった（間に合わなかった）生徒が毎年います。

多くの受験生は試験が近づくと、本気で受験勉強を始めます。始める時期は人それぞれですが、大事なのは、間に合うかどうかです。時間をかければ（集中しているかどうかには依りますが）、知識量が増え、応用力は高まり、点数は伸びていきます。目標点にいつかは到達できると思います。でも受験は期日が決まっています。その日までに目標点に到達できる学力をつけておく必要があります。学校での授業に集中することはもちろん、家庭学習時間の確保が大事ではないでしょうか。模擬試験や実力テストは、自分の到達度を確認する良い機会になります。



1年間、3年生を担当して、新2・3年生になる皆さんへのアドバイスになるようなことを考えてみました。参考になれば幸いです。

志望校が変わる…

君たちは進路希望調査や模擬試験を受けるときに、志望校を記入する機会が今後、増えてきます。しかし、その記入する希望校に対して、君たちにはどれほどの明確な志望理由があるのでしょうか。先輩方と同じように、そう言われると明確ではないのかもしれませんが、それが少しでも明確になるように考えていきましょう。例えば、自分がやりたいことがある大学のある学部でしかできないのであれば、それが明確な志望理由になると思います。それを持っている人はそれがより実現できる学校を探せばいいのです。自分がやりたいことが多くの学校でできるのであれば、その範囲を広げておくことが大切です。

丁寧に客観的な自己分析とは…

進路決定以外でも自己分析はとても重要なことです。自分がやりたいことと適性がずれていけばうまくいかないことも予想されます。第三者に分析してもらったより適した学部学科を見つけることができると思います。2年生は12月に志望別の集会を行いましたよね。その時にも話しましたが、看護師を希望する人ですごく思いやりがあるが、体力がなかったり、ミスが多かったりすると看護師としての適性があるとは言い難いと思います。

間に合わなかった生徒…

間に合わないということは何を表しているのでしょうか。ゴール（試験日）が決まっているから、そこまでの時間で自分たちが目指すところまで到達するかどうかということになります。いつ本格的に始めるかどうかです。あわせて、今までに積み上げてきたものが本物であるかどうかも重要です。1年生はまだまだ取り返す時間があります。この臨時休業期間を前向きにとらえることができると未来は広がります。そのためにも、正しいことを正しくやりましょう。



毎日、確認してください

- 「検温」している
- 「感染予防」を確実にやっている
- 「朝」に起きている
- 「自宅学習」を行っている
- 「適度な運動」を行っている
- 「大村高校 HP」を確認している

3. 1 1

3月1日が近づいてきました。2011年3月11日。現在高校2年生、1年生の皆さんはまだ小学校の低学年だった頃でしょうか。日本社会を揺るがす大地震が発生しました。あの日以来、日本は大きく変わりました。変わらなければならないと思いました。生きるとはどういうことなのか、学ぶとはどういうことなのか、教えるとはどういうことなのか、深く考えさせられました。被災した学校では、卒業式もできませんでした。右の写真は、宮城県石巻市にあった門脇小学校という学校の子供たちが受け取った卒業証書です。この卒業証書は校長室の金庫に保管してあり、津波の被害からも免れ、奇跡的に無事だったそうです。4月になって、子供たちに手渡されました。この子供たちは、今、21歳になっています。この時受け取った卒業証書はきっとどんな宝石や札束よりも大きな価値を持つ、一生の宝物となっているはずです。



(朝日新聞 DIGITAL 2011.4.15)

★今日、様々なメディアを通して、感じること、考えることがあったと思います。時間をかけて深く考えたいですね。